

ネギハモグリバエB系統の被害の特徴

- 1 ネギハモグリバエB系統は、葉を多数の幼虫が集中的に加害する特徴があり、被害が大きいと葉の白化に加え、外葉が枯死する。
- 2 また、ネギハモグリバエ被害上では、ネギ葉枯病（褐色斑点病斑）が確認され、周辺では黄色斑紋病斑も確認された。黄色斑紋病斑の発生リスクを回避するため、栽培期間を通してネギハモグリバエ防除を実施する。

1 令和2年のネギハモグリバエ発生状況とB系統による被害の特徴

令和2年は、5月下旬からネギハモグリバエによる被害が多くみられ、6月下旬には被害程度の高い圃場も散見された(図1)。被害程度の高い圃場では、従来のネギハモグリバエ(以下、A系統)による被害とは異なる食害が確認された(図2)。この発生圃場(花巻市、露地ねぎ)で採集した成虫の同定を農研機構に依頼し、別系統(以下、B系統)であることが判明したことを受けて、病害虫発生予察情報特殊報第1号として発表した(令和2年8月18日)。

B系統による被害は、多数の幼虫による集中的な加害であり、被害が大きいと葉の白化に加え、外葉が枯死する(図3)。

ねぎ巡回調査圃場においては、B系統によるものと考えられる集中的な加害が広く確認されたほか、県内8地点でB系統の発生が確認されたことから(図4)、B系統は県内で広く発生している可能性がある。また、北上市のたまねぎにおいても同系統の寄生が確認されている(図5)。

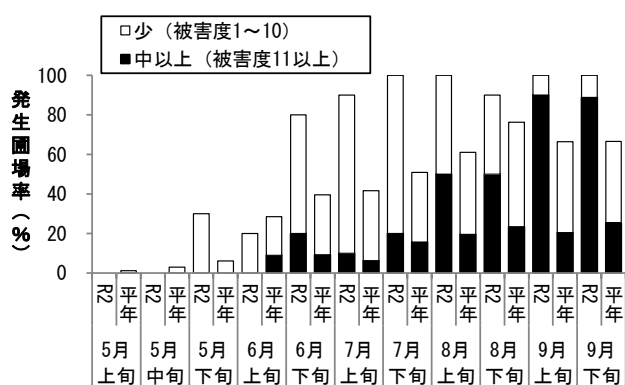


図1 巡回調査におけるネギハモグリバエの時期別発生推移



図2 ネギハモグリバエによる被害
(左：B系統、右：A系統*)
*：いわての農作物病害虫図鑑より



図3 ネギハモグリバエB系統による特徴的な被害(左：白化、右：外葉の枯死)

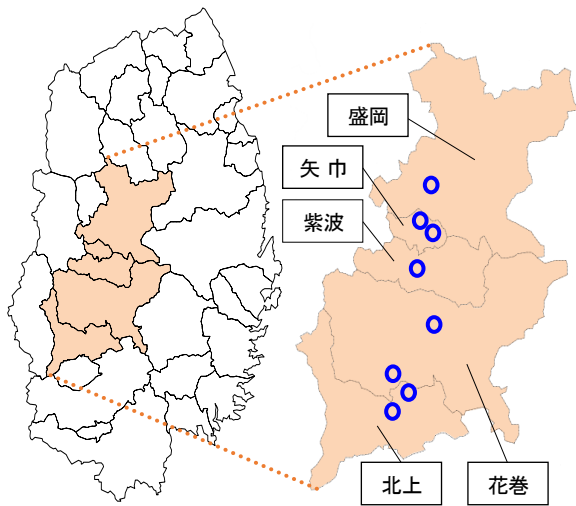


図4 ネギハモグリバエB系統確認地域



図5 たまねぎ葉でのB系統による被害

2 ネギハモグリバエ被害上でのネギ葉枯病の発生

経時的にネギハモグリバエによる被害を観察したところ、潜葉痕上に、葉枯病(褐色斑点病斑)が確認された。なお、病斑のある近隣の株では、黄色斑紋病斑の発生も確認した(図6)。

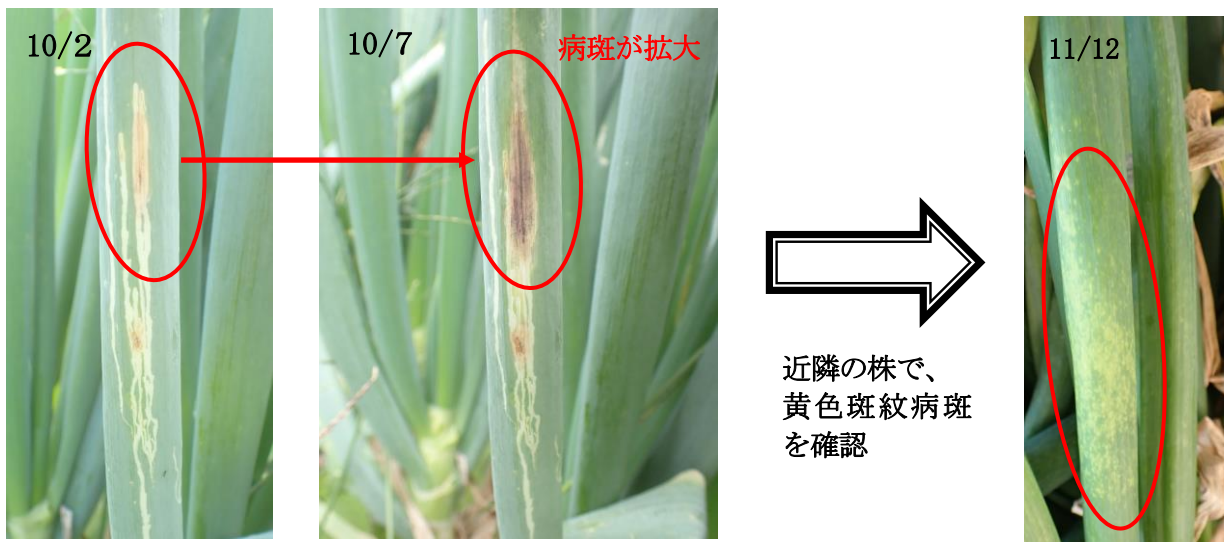


図6 ネギハモグリバエ被害上の褐色斑点病斑と周辺で確認された黄色斑紋病斑

3 ネギハモグリバエの防除対策

- ・防除は、本虫の系統(A、B)に関わらず、発生初期から、ネギハモグリバエ又はハモグリバエ類に適用のある薬剤を選択する。
- ・被害葉や収穫残渣は圃場内に放置せず、まとめて積み上げ、ビニールで被覆・密封するなど、太陽熱を利用して殺虫する。
- ・なお、近年問題となっている「黄色斑紋病斑」は、葉枯病(褐色斑点病斑)の発生圃場で多いが、ネギハモグリバエの潜葉痕に、葉枯病(褐色斑点病斑)の発病が確認される事例があるので、黄色斑紋病斑の発生リスクを回避するためにも、栽培期間を通してネギハモグリバエの防除を徹底する。

参考文献

- 1 令和2年度病害虫発生予察情報特殊報第1号「ネギハモグリバエ別系統の発生について」
- 2 令和元年度病害虫防除技術情報 R1-4「ネギ葉枯病(黄色斑紋病斑)の発生特徴と防除対策」